

＜帝塚山学院泉ヶ丘中・高等学校 授業案＞

- 対象学年・生徒：国際科 第三学年 40名
- 時間：13時15分～14：05分
- 科目：総合英語・英作文+リスニング
- 場所：視聴覚教室（3F）
- 教材：mobalish（ウェブ上で配信される時事英語・日本語訳と音声つき）
英作文/ポイント征服16講（山口書店）

- ねらい：英作文、リスニング、異文化理解

高校3年の入試対策としての英語の授業。センター入試にリスニングが導入される最初の学年のため、過去、リスニング教材を多用。動機づけのため、テレビ授業を実施。

- 授業の進め方

1. 英作文第14課 Step 3（5題）解説
2. Mobalish テーマ 「最近の高校生」

(1) テキストを見ずにリスニング (2) 英文テキストを読む (3) 日本語訳で内容確認

3. テレビ会議

トピックについてネイティブによるトーク ハワイの Cindy Wong 先生担当

- 日常の授業： 5単位 英作文と長文読解、リスニング

英作文のテキストの演習問題は Step 1～3の3部構成。解答（例）冊子配布済み。

Step 1・2は、語法・文法問題。Step 3は、英作問題（国公立入試対応で国際科生徒には難解）

- 対象生徒：高校3年。一学年一クラス41名。3年間担任・英語担当 1・2年は、5単位の授業時間、毎回、リスニング教材使用。 3年2単位で英語による授業（辻以外の一教員）

- 行事：オーストラリア研修（希望者）、語学合宿、テレビ授業、英会話2単位、

- 結果：過去2年間5回の外部模試で、リスニングのクラス平均偏差値が毎回上昇し、48から58弱にまで、10ポイント近く伸びた（最終は2年の2月実施模試）。

英作文は、辻担当の5単位（英文法とリーディングをあわせて）で扱い、毎時間、長文問題集以外に英作を教える。5単位で集中して教えることを目的にカリキュラムを変則的に運用。一時間内に英作文と長文を扱うため、英作を黒板に書かせる従来のやり方では、時間が不足するので e-mail で事前に送らせ、実際の授業ではプリントアウトして解説する。

e-mail で送る利点は時間節約と教員の事前チェックができること。問題点は、タイピングや e-mail 送信などで生徒に過重負担を負わせること。タイピングの遅い生徒はノート添削という形をとっている。

英作問題集の Step 3は難解なこと、実際の入試では不要な生徒が多いため、取り組む生徒が少数に限定されてきた。

リスニング対策として3年次より mobalish を導入。主として英会話の時間のトピックの材料として利用。辻の授業では、特別授業（2単位）の中で利用。

利用法としては、

1. テキストを見ずにリスニング
2. 英文テキストを読む
3. 日本語訳で内容確認
4. トピックについてネイティブによるトーク